



ひろしまアワード 受賞者 発表

第2回ひろしま国際平和文化祭（通称：ひろフェス）は、令和6年8月1日に開幕する、音楽、メディア芸術、ストリートダンスを柱とした大規模な文化イベントです。

日常生活の中で平和への思いを共有する「平和文化」を醸成する環境づくりの一環として、広島市民・広島広域都市圏住民や、国内外から広島を訪れる方々が、多様で上質な音楽・芸術等の魅力に触れ、共感を生み、相互の理解を深める機会を提供し、国際平和文化都市を象徴する文化芸術活動の創出を目指しています。

ひろフェスでは、被爆の廃墟から復興を果たした広島地より、平和文化の振興、公正でサステナブルな世の中の実現に貢献することが期待される個人・団体を表彰する「ひろしまアワード」を贈賞しています。

この度、第2回ひろフェスの、ひろしまアワードの受賞者が決定いたしました。ひろフェスの3つの部門「音楽」、「メディア芸術」、「ストリートダンス」の各部門ごとに1組、合計3組の「ひろしまアワード」受賞者を発表します。

なお、8月1日(木) 広島市中区 JMSアステールプラザ大ホールで開催する「ひろフェス オープニングイベント」内で、授賞式を行います。

第2回 ひろしま国際平和文化祭 ひろしまアワード 音楽部門 受賞者

成澤けやき (なるさわけやき)

メディア芸術部門 受賞者

やくわしんのすけ

八鍬新之介および「窓ぎわのトットちゃん」制作チーム

ストリートダンス部門 (坂見誠二賞) 受賞者

st kingz** (シットキングス)



第2回 ひろしま国際平和文化祭 ひろしまアワード 音楽部門 受賞者

成澤けやき (なるさわけやき)

ストリートミュージシャン 1975年東京都出身
世界最古の管楽器と言われるオーストラリアの先住民の
聖なる楽器ディジュリドゥなど様々な楽器を演奏する。
ヨーロッパやオーストラリアでの活動の後、
宮崎県日向市東郷町に移住。
放置された竹林を楽器や肥料に変える企画バンブー・
ミュージック・ミヤザキや、地域の皆様とともに
オーガニックマーケットを開催。音楽をベースに
地域の人たちのバイタリティをかきたて、地域の自然、
魅力を再発見し発信。
人口およそ3,000人の東郷町が活性化を果たしている。



■受賞理由

「平和文化への貢献」というコンセプトについて、選考委員全員で意見交換を行い、「何気ない日常を送れる社会の実現」という広い意味で選考を行いました。宮崎県東郷町在住の成澤けやきさんは、里山保全の観点から、地域のやっかいものだった竹で楽器を作って子どもたちと演奏会を行っただけでなく、地元の皆さんと一緒に音楽活動を行ったり、地元の産品を開発・販売することで、地域の絆づくりや産業の振興、町おこしに努めています。成澤さんの活動は、世界にも通用するオリジナリティのある音楽を起点に、持続可能な地域社会の実現を目指しており、それが平和な社会の実現に繋がる可能性が高いと評価し、贈賞を決定しました。

(下野竜也 プロデューサー／岩野裕一 審査員／松尾潔 審査員)

■選考過程

下野竜也音楽部門プロデューサー、岩野裕一氏、松尾潔氏、増井威司ひろフェス総合プロデューサーにより、1次候補者17組を選定。
同メンバーにより、1次審査、2次審査を行い、最終候補者2組を選定。
最終プロデューサー会議にて1組を決定。

なお、成澤けやきさんには、8月1日に開催される ひろフェスオープニングイベントに出演、演奏を披露していただきます。



第2回 ひろしま国際平和文化祭 ひろしまアワード
メディア芸術部門 受賞者

やくわしんのすけ
八鍬新之介および
『窓ぎわのトットちゃん』制作チーム

八鍬 新之介（やくわしんのすけ、1981年 - ）は、日本の男性アニメ監督。北海道帯広市出身。2005年にシンエイ動画へ入社。

『映画ドラえもん 新・のび太の大魔境 ～ペコと5人の探検隊～』

（2014年）で長編映画の監督としてデビュー。

2023年3月、黒柳徹子の自伝的小説『窓ぎわのトットちゃん』について初の映像化作品として、八鍬監督によるアニメ映画を制作することが発表され、同年12月8日に公開。

2016年に企画され、2019年から本格始動。構想から7年の歳月を費やし製作された。



©黒柳徹子 / 2023映画「窓ぎわのトットちゃん」製作委員会

■受賞理由

本作品は、直接的に戦争を描くわけではなく、政治や世界情勢、戦争の現実を知らない子供の視点で戦時中の日常生活や空気感の変化を描くことで、平和な日常のありがたさや大切さを、子供から大人まで幅広い層に訴えかけるという点で秀逸な作品です。

誰もが知る原作をアニメーション化するその表現の仕方も、本作は優れています。とりわけキャラクターの身体性や肉体的演出はもちろん、自然描写も非常に丁寧です。そこに、声優の演技力や特殊なアニメーション技法の併用という工夫が、それをさらに高めています。

（土居伸彰プロデューサー / 宮崎しずか共同プロデューサー / 山村浩二ディレクター）

■選考過程

土居伸彰メディア芸術部門プロデューサー（アニメーション）、岩下朋世氏、椎名ゆかり氏（マンガ）、井上明人氏（ゲーム）、畠中実氏（メディアアート）の推薦により、1次候補者42組を決定。

土居伸彰メディア芸術部門プロデューサー、宮崎しずかメディア芸術部門共同プロデューサー、山村浩二メディア芸術部門ディレクターにより、2次審査を行い、最終候補者2組を選定。

最終プロデューサー会議にて1組を決定。

なお、八鍬新之介監督は、8月1日に開催される ひろフェスオープニングイベントに来場、映画「窓ぎわのトットちゃん」の制作について、お話していただきます。



第2回 ひろしま国際平和文化祭 ひろしまアワード

ストリートダンス部門 (坂見誠二賞) 受賞者

s**t kingz (シットキングス)

shoji・kazuki・NOPPO・Oguriの4人で構成されるダンスパフォーマンスグループ。2007年に結成。アメリカ最大のダンスコンテスト「BODY ROCK」では、2010年、2011年と連続優勝。世界各国からオファーが殺到し、これまで25カ国以上を訪問。その活躍から、「音楽の日」「ミュージックステーション」「関ジャム」などにはアーティストとして出演。2021年1月には、ダンサー発としては異例の全曲オリジナル楽曲で作り上げる「FLYING FIRST PENGUIN」(Blu-ray)を発売。オリジナル舞台公演は毎回好評で、2023年10月には、日本武道館での単独ライブに成功した。なおこの公演は即日完売となった。



■受賞理由

ストリートダンスの原点であるヒップホップ文化は、暴力や貧困に向かっていた負の力を、ラップやグラフィティ、ダンスなど正のベクトルに変換することから始まっています。また、家族や友人を大事にする気持ち、技術を磨くことで仲間を代表するという思い、お互いを認め合い称えあうところを大切にしています。そういった観点で考えると、ストリートダンスで表現するということは、即ち、他者とともにある平和な日常を願うこととなります。

s**t kingzは現在のストリートダンス界を代表する存在であり、ダンサーの地位の向上に大きな貢献を果たしています。ストリートダンスで表現する意味や、そこに流れている平和な日常への思いを、いま最も広く伝えている存在であるため、ひろしまアワードを贈賞するに相応しい存在です。

(TAKA プロデューサー／マシーン原田 審査員／田中大爾 審査員)

■選考過程

一般社団法人ストリートダンス文化振興会に所属する3名、TAKAストリートダンス部門プロデューサー、マシーン原田氏（一般社団法人日本国際ダンス連盟参与長）、田中大爾氏（一般社団法人日本国際ダンス連盟参与）が各々推薦した合計40組の候補者から、1次選考を行い、7組を選定。同メンバーにより、2次審査を行い、最終候補者3組を選定。最終プロデューサー会議にて1組を決定。

★ひろしまアワードストリートダンス部門は、「坂見誠二賞」として贈ります。

坂見誠二氏は、日本にストリートダンスを伝えた重鎮の一人で、ストリートダンス界のカリスマ、ダンスの神様と称された人物で、今回のダンス部門プロデューサーTAKAやアワード選考員のマシーン原田、SAM、EXILE HIRO、ISSA、三浦大知ら日本のストリートダンスを支えてきたメンバーたちがリスペクトする存在です。

広島を本拠地に活動していた坂見氏は2023年に65歳で逝去されました。

ひろしまアワードストリートダンス部門は、ストリートダンス界にとって大きな賞となるため、レジェンド坂見誠二氏の名前を戴くこととしました。



なお、s**t kingzメンバーまたは関係者の、8月1日に開催されるひろフェスオープニングイベントへの来場は調整中です。

資料：ひろしまアワード 審査員（2次審査）

ひろしまアワードは、「音楽」「メディア芸術」「ストリートダンス」各部門ごとに専門家による1次審査、2次審査を行った上、ひろしま国際平和文化祭実行委員会 山本一隆会長と各部門のプロデューサーで構成する最終プロデューサー会議で受賞者（各部門1組・合計3組）を決定しました。

● 音楽部門審査員



岩野裕一

音楽ジャーナリスト。実業之日本社代表取締役社長。
特にクラシック音楽に造詣が深く、著書に「王道楽士の交響楽」（第10回出光音楽賞）や「朝比奈隆 すべては「交響楽」のために」、「日本のピアノ100年」（第18回ヨゼフ・ロゲンドルフ賞）など。新日本フィルハーモニー交響楽団、富士山静岡交響楽団評議員。



松尾 潔

音楽プロデューサー、作家、プロデューサー、ソングライターとして平井堅、CHEMISTRY、東方神起、SMAP、JUJU、由紀さおり等に提供した楽曲のセールスは3,000万枚を超す。EXILEの「Ti Amo」（作詞・作曲）で日本レコード大賞、天童よしみ「帰郷」で日本作詞大賞を受賞。近著に「おれの歌を止めるな」（講談社）。

音楽部門プロデューサー 下野竜也を加えた3名で2次審査を行いました。

● メディア芸術部門審査員



山村浩二

ひろしまアニメーションシーズン アーティスティック・ディレクター。「頭山」（2002年）が第75回アカデミー賞にノミネート、アヌシー、ザグレブ他6つのグランプリを受賞。その他にもアニメーション作品の受賞は100を超える。2021年、過去25年間の優れた短編監督25人のトップ2に選出。川喜多賞、芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章受章。映画芸術科学アカデミー会員（米）、ASIFA日本支部理事、日本アニメーション協会副会長。

メディア芸術部門プロデューサー 土居伸彰、宮崎しずかを加えた3名で2次審査を行いました。

● ストリートダンス部門審査員



マシーン原田

1980年代から日本のトップブレイクダンサーとして活躍し、90年代には後に世界最大級のストリートダンスコンテストとなる「JAPAN DANCE DELIGHT」を立ち上げる。2015年には現在のDリーグの礎となるダンスリーグを設立するなど、日本のストリートダンス界を常にリードしてきた存在。
一般社団法人ダンスリーグ代表理事。FIDA JAPAN（一般社団法人日本国際ダンス連盟）参与長。



田中大爾

ストリートダンサーとして活動後、ストリートダンスプロデュース会社ADHIPに入社。その後、年間約90本のイベントをプロデュースし、現在は代表取締役社長。
主なプロデュースイベントに「JAPAN DANCE DELIGHT」、世界最大級ブレイクダンス世界大会日本予選「BATTLE OF THE YEAR JAPAN」、中学生高校生ストリートダンス全国大会「DANCE ATTACK」など。

ストリートダンス部門プロデューサー TAKAを加えた3名で2次審査を行いました。

資料：ひろしまアワード 審査員（最終審査プロデューサー会議）



エグゼクティブプロデューサー 増井威司（ますい たけし）

中国放送で数多くの番組プロデューサー、ディレクターを担当。
ドキュメンタリーからエンタメ、ラジオドラマまで幅広いテーマを扱い、第77回文化庁芸術祭賞大賞（生涯野球監督迫田穆成〜終わらなき情熱〜 2022年）、ギャラクシー賞ラジオ部門大賞（日々感謝。ヒビカン 2013年）、その他にも日本民間放送連盟賞や放送人グランプリ（2023年）など、数々の賞を受賞。
「チームラボ 広島城 光の祭」（2019年）など、大型イベントも手掛けた。1964年江田島市生まれ。



音楽部門プロデューサー 下野竜也（しもの たつや）

1969年生まれ、鹿児島県出身。2000年東京国際音楽コンクール優勝、2001年プザンソン国際指揮者コンクール優勝。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、海外においても次々と客演を重ねている。これまで読売日本交響楽団の初代正指揮者、同響首席客演指揮者、京都市交響楽団常任客演指揮者、同響常任首席客演指揮者等を歴任。2011年から広島ウインドオーケストラ音楽監督、2017年から広島交響楽団音楽総監督を務める。2023年10月、NHK交響楽団正指揮者に就任。2024年4月には、札幌交響楽団首席客演指揮者ならびに広島交響楽団桂冠指揮者に就任予定。2002年出光音楽賞、2014年度第44回東燃ゼネラル音楽賞奨励賞等、受賞歴多数。



メディア芸術部門プロデューサー 土居伸彰（どい のぶあき）

アニメーション研究・評論、プロデュース。配給やイベント企画・運営、執筆・講演、コーディネートやプロデュース等、様々は方法論を活用することにより、世界の優れたアニメーションの才能を世の中に紹介する事業を行っている。主な映画祭の仕事に新千歳アニメーション映画祭の立ち上げ、主な著書に「個人的なハーモニー・ルシュティンと現代アニメーション論」、主なプロデュース作品に、ゲーム「マイエクスサイズ」や短編アニメーション「不安な体」などがある。株式会社ニューディアー代表。



メディア芸術部門共同プロデューサー 宮崎しずか（みやざき しずか）

東京芸術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了。
広島を拠点に、アニメーション作品の制作や発表、アニメーション教育や多様なアニメーション表現のあり方や楽しみ方をより多くの人に伝えるための活動も行う。「キドモドキ」（2013年）はファンタシー国際映画祭や国内外の映画祭で上映され、海外の作家や国内の企業との共同制作も進行中。
第1回新県美展（広島県立美術館）映像系優秀賞受賞（2013年）。ひろしま文化新人賞受賞（2020年）
比治山大学短期大学部美術科准教授。



ストリートダンス部門プロデューサー TAKA（たか）

数多くのダンスコンテストで受賞し、NYと日本を行き来しながら様々な世界的ダンサーに指事。
DA PUMPのツアー振付、バックダンサー（2000年～2004年）、日本最大級のストリートダンスコンテストJAPAN DANCE DELIGHTを運営する株式会社ADHIP取締役、一般社団法人日本国際ダンス連盟（FIDA JAPAN）参与。
広島では、地域密着型ダンスサークルDANSPOURTを展開する他、ダンススタジオFLEXを1995年に設立し、Dリーガーなど、これまで多くの有名ダンサーや振付師、演出家、ダンス指導者を輩出し続け、ダンス界の名門校と呼ばれる。広島市出身。